

った作業を1人でこなせるようになるため、人手不足の解消に役立つほか働き方改革にもつながる。同社によると、こうした機械は業界で初めてという。将来は他社への販売も検討する。



ブレードで土をかき混ぜた後にふるいにかける

まず千曲で稼働

原千曲市の中央試験センターに機械を設置し、11月中旬に稼働させる。現場で使いやすいよう、細かな改良を加えた上で、宮城県の東日本試験センターや山口県の西日本試験センターにも設置を見込んでいる。

大手メーカーなどにも開発を依頼したが、粘度やよめの細かさなどが異なる土の準備作業を、機械が手掛けるのは難しいと断られたという。地質試験では、土をよかき混ぜた後にふるい

土管理総合試験所は、新しい装置が働き方改革につながるほか、泥臭い印象が強い地質試験のイメージ向上にもつながるとみている。装置は中に入れた土をブレードでかき混ぜ、必要量をふるいに掛けて石を取り除く。ふるいの目の細かさは5ミリや10ミリ

地中管路の曲

多摩川精機 韓国

川中島に商業施設

キッズスペースや託児所も

nakara



川中島 Hiroba には大型のキッズスペースを用意する

長野市で複数の飲食店を運営する nakara (同市) は15日、同市川中島に子ども連れ向けの商業施設「川中島 Hiroba」を開く。同社が複合施設の運営に乗り出すのは初めて。テナントとして地元企業10社が営業する。広めのキッズスペースを用意するほか、託児所も備える。子どもを連れ親が安心して食事や買い物を楽しめるようにする。

2階建てだ。地元のケーキ店やパン店、バスタ店や雑貨店などをテナン

トとして誘致した。温浴施設の「川中島温泉」と建物がつながっており、客を相互に回遊させる。大手チェーン店などに比べて資金力の乏しい地元の店が1つの建物に集まって出店することで、水回りなど設備投資の負担を抑える。「大型の商業施設に負けない魅力を発信したい」(加藤大介社長)。テナントの店の広報も一体的に展開していくという。

松本空港利用で2万円

県内企業に現金還元 県キャンペーン

長野県は8日、信州まつもと空港を6回(片道換算)利用した県内企業を対象に、2万円を払い戻すキャンペーンを初めて実施すると発表した。

19日〜2019年2月28日に運航する松本一札幌と松本・福岡の定期便が対象となる。県内企業を対象に出張や帰省など関係者に現金還元する。計6回利用すればキャン

利用してもらおう狙いがある。利用できるのは長野県内にある商工会議所の会員企業・団体。社内で累計6回利用すればキャン

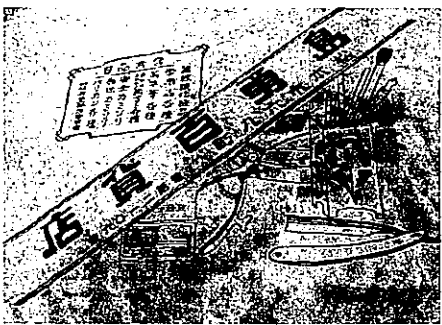
シュバックが尋る。例えば3人する場合、行きも本空港を利用すると計算される。出張や帰省、社

子供向け白杖が最優秀賞

キザキ、福祉機器コンテストで

老舗の研究 持続の秘訣

「紙館 島勇」



「紙館 島勇」の前身だった「島勇百貨店」で使用されていた包装紙から当時の取り扱い商品が分かる

〈会社紹介〉	1921年
創業種	和紙販売、日用品
創業時	販売 和紙・和雑貨販売
現在	和紙・和雑貨販売
所在地	長野県松本市大手2-4-25
社長	伊藤慶氏

家で店を移転・拡張した。小学生だった慶社長は「どうしたら倍くらい広くなった」と印象を語る。店のある商店街は当時はにぎやかだった。買い物客どうしが道でぶつかり合うほど混雑した。会社の経営も順調だった。慶社長には兄弟がいる。自社で内装を全

家訓なし、日本文化に触れてもらうことが

高級和紙、ネットに活路

長野県松本市の中心商店街にある老舗の和紙専門店「紙館(やかた)島勇」が9月、店舗を全面改装した。和紙をキーワードに、3年後の創業100周年を見据え、日本文化の情報発信拠点を

が現在の店舗近くへ「島勇百貨店」を開いた。雄一郎は3代目の伊藤

ただ当時の包装紙に記載された商品名を見ると、日用品も扱っていた。戦

した。和紙は必ずや障子などに広く使われ、社

が、早くから家業を継ぎたいという思いを家族に話していた。若いうちに

店が小売りに